

The background features a close-up of green leaves with prominent veins, transitioning into a blue, rippling water surface at the bottom.

# TDK CSR Report

*TDK Corporate Social Responsibility Report* **2007**

ダイジェスト版

# TDK CSR Report

TDK Corporate Social Responsibility Report **2007**

ダイジェスト版

## Contents

- 02 ステークホルダーの皆様へ
- 03 TDKの事業と社会的責任の認識
- 04 TDKグループのCSR
- 05 コーポレート・ガバナンス

---

- 07 **ハイライト1 環境**  
環境循環型企業を目指して TDKアモイの取り組み
- 08 **ハイライト2 人材教育**  
能力開発・育成プログラム 一人ひとりの能力を最大限に伸ばす「成長目標プラン」
- 09 **ハイライト3 社会貢献**  
スポーツ＆音楽教育プログラム 「有名陸上選手による訪問指導」と「公開リハーサル・アウトリーチミニコンサート」

---

- 10 お客様との関わり 社会編
- 11 株主・投資家との関わり
- 12 調達取引先との関わり
- 13 従業員との関わり
- 14 コーポレートコミュニケーション/地域社会との関わり

---

- 15 **環境ビジョン**
- 16 **目標と実績**
- 17 **温暖化対策**
- 18 **排出物対策**
- 19 **環境配慮型製品の創出推進**
- 20 **TDKの環境配慮型製品**

---

- 21 企業概要/ビジネスの概要
- 22 経営理念/TDK企業倫理綱領

---

- 23 **環境編**

## 編集方針

### 「TDK CSR Report 2007」の編集方針について

「TDK CSR Report 2007」は、TDKグループの2006年度におけるCSR（企業の社会的責任）活動をステークホルダーの皆様によりわかりやすく報告することを目的に作成しました。

### 2007年版について

- ・情報開示の形態を、媒体特性にあった読みやすい構成と内容にするため、詳細Web版と冊子（ダイジェスト版）の構成にしました。
- ・報告書の編集にあたっては「GRIサステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」およびG3を参考にしました。

### レポートの対象範囲

#### 対象期間

活動実績は、2006年度の活動を中心に報告していますが、一部その期間以外の取り組みや、2007年度の活動も含んでいます。

#### 対象組織

原則としてTDKグループを対象としています。  
※TDKグループ：TDK株式会社および国内・海外連結子会社90社

#### データの範囲

経済性報告：TDK株式会社および連結対象子会社90社。  
社会性報告：データ範囲を個々に記載しています。  
環境報告：環境マネジメントシステムを構築している全サイト。

お問い合わせ先 TDK株式会社 広報部 Tel.03-5201-7102 Fax.03-5201-7114

# ステークホルダーの皆様へ

## 企業の社会的責任を果たすために

企業を取り巻く社会環境は、環境問題の深刻化、デジタル化・IT化の進展などにより、大きく変わりつつあります。経済活動、企業活動のグローバル化が進み、社会に大きく影響を及ぼすような経済規模を持つ企業も多く存在します。また地球環境問題だけでなく、企業倫理の欠落から生じる不祥事など、様々な社会問題も後を絶ちません。

このような状況の中、社会に関わるさまざまな企業活動全般に、従来以上に高い関心が向けられるようになり、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)がますます重要になってきました。当社は、コア技術である材料技術とプロセス技術を駆使して、電子機器の小型化・軽量化により社会的に意味のある製品を提供してまいりました。今後も、市場の激しい変化に迅速に対応しながら、TDKが得意とする独自のモノづくりに努め、地球環境に配慮した製品・技術を開発し、さらなる成長を続けてまいります。

「創造によって文化、産業に貢献する」という社是のもと、TDK企業倫理綱領に基づいた公正で透明な企業活動を実践することで、コーポレートガバナンス(企業統治)を充実させ、企業の社会的責任を果たし、お客様、取引先、株主、従業員、地域社会というすべてのステークホルダーの皆様信頼される企業を目指します。

TDK株式会社  
代表取締役会長 澤部 肇

澤部 肇

TDK株式会社  
代表取締役社長 上釜 健宏

上釜 健宏



# TDKの事業と社会的責任の認識

TDKは1935年、磁性材料フェライトの工業化を目的として創業いたしました。以来70年以上にわたり、フェライトを源流とする素材技術、その素材の特性を引き出すプロセス技術、評価・シミュレーション技術を展開し、独創的な価値ある製品を開発、提供してまいりました。これらのコア技術をナノテクノロジーで進化させるとともに、「情報家電」、「高速・大容量ネットワーク」、「カーエレクトロニクス」の3分野に経営資源を集中。加えて現代

社会においてCSRの重要性がますます高まっていることを受け、企業活動に社会的公正性や環境への配慮などを積極的に採り入れ、社会の一員としての義務を果たすことに取り組んでいます。そして持続可能な社会に貢献する企業として、企業価値の向上に努めてまいります。

## 成長3分野に経営資源を集中

### ● 情報家電

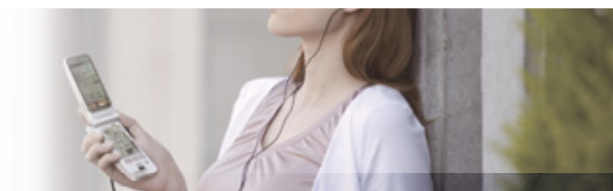
### Flat-Panel Displays & DVD/HDD Recorders

大きな進化を遂げた薄型テレビ。その発展の裏には「より小さく、より高性能」を追求する電子部品の絶え間ないイノベーションがあります。伝送帯域を6GHzにまで拡大したHDMI用コモンモードフィルタや、1個のトランスで複数の冷陰極管を駆動するインバータユニットなど、TDKの電子部品はテレビの薄型化・高機能化に貢献しています。



### ● 高速・大容量ネットワーク

高機能・多機能化するモバイル機器。想像を超える性能の実現に、TDKの技術が活かされています。高機能化に伴って重要度を増すノイズ対策部品やバッテリー消費を低減する可視光センサなどがモバイル機器の進化に貢献。ノートPCの世界では、HDDの大容量化をはじめ、チップバリスタや電源系コイルなどで、高機能化を支えています。



### Cell Phones & Portable Audio

### Personal Computers/Blu-ray Disc



### ● カーエレクトロニクス

“走るコンピュータ”化が進む自動車。ここでもTDKの製品は活躍しています。耐熱性チップコンデンサや、車載LAN規格であるCANの差動伝送信号からノイズを除去するコモンモードフィルタなど、高信頼性の製品を提供。また、ハイブリッド車用DC-DCコンバータやネオジウムマグネットは世界トップレベルの性能を発揮しています。



### Automobiles & Car Navigation



## TDKのCSRは「社是の実践と企業倫理の追求」です

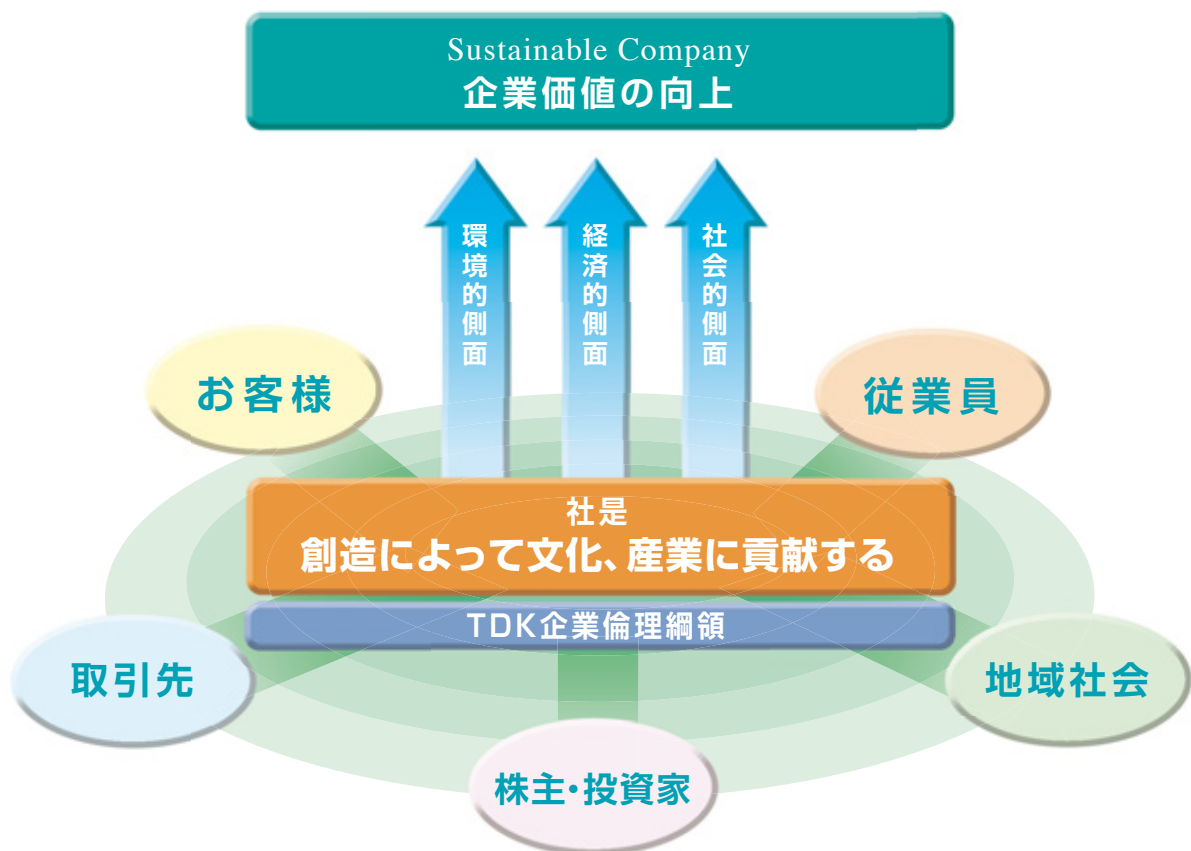
TDKのCSR活動は、企業理念である社是「創造によって文化、産業に貢献する」そのものです。この社是自体がTDKのCSRの原点であり、目指すべき指針となっています。

TDKの創業の原点である磁性材料フェライトは、まさに創造によるオリジナリティのある電子材料として様々なエレクトロニクス製品を生み、事業を拡大成長させてきました。独創的な新製品を作り出し供給することで、生活を便利にし、社会に貢献するというTDKの存在価値につながるものです。

またTDKが社会にとって必要な企業であり続けるためにも、公正な企業倫理を確立し、追求していくことが、TDKのCSR活動

そのものであると考えています。それは同時に「経済的側面」「環境的側面」「社会的側面」の3つをバランスよく発展させることが必要との認識につながります。

TDKは、「e-material solution provider」のコンセプトのもと、さまざまなステークホルダーが必要としている情報を積極的に開示し、継続的な対話を通じて、相互理解、課題の共有、問題解決を進めていくことで、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、社会にとって必要な企業として、成長を続け企業価値の向上に努めたいと考えています。



# コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスの基本的考え方

企業は、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会というすべてのステークホルダーによって支えられている社会的存在であることを認識し、よき企業市民として法令等の社会規範を遵守するとともに、社会に対し公正かつ公平でなければなりません。

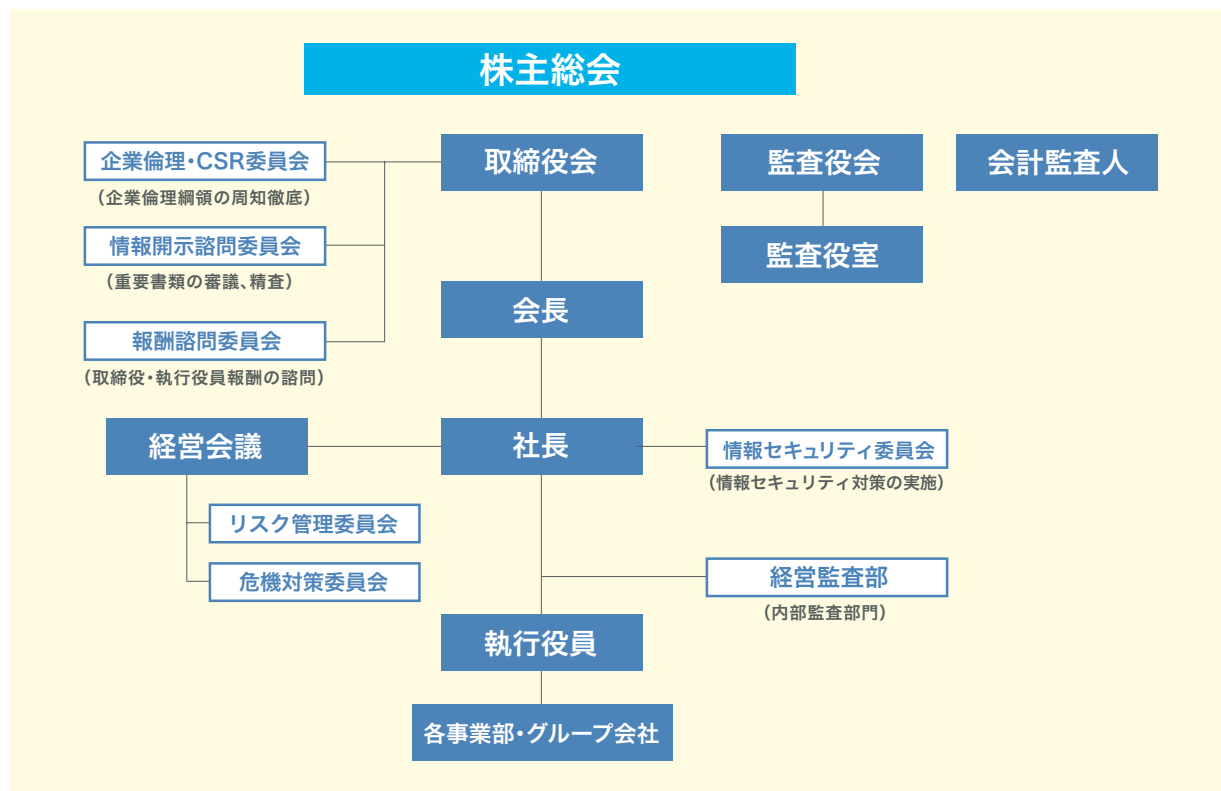
こうした企業の社会的責任を果たすためには、効率的かつ健全な企業活動を確保する企業統治体制(コーポレート・ガバナンス)の確立が重要であると当社は考えています。

## コーポレート・ガバナンス体制の概要

企業は、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会に支えられた存在であるとの基本認識に立ち、当社は、経営の遵法性、透明性、健全性を確保し経営目標を達成するため、次の経営体制を確立しております。

- 1 取締役会機能の強化および責務の厳格化のため、取締役会を少人数構成(7名)とし、利害関係のない社外取締役(1名)を招聘するとともに、取締役任期を1年としております。
- 2 執行役員制度の採用により、経営の意思決定および業務監督機能と業務執行機能を分離し、迅速な業務執行を図っております。
- 3 監査役制度を採用するとともに、経営の監視機能を強化するため、利害関係のない過半数の独立した社外監査役(5名中3名)を招聘しております。
- 4 取締役会の諮問機関として、企業倫理・CSR委員会、情報開示諮問委員会、報酬諮問委員会を設置しております。

## TDKコーポレート・ガバナンス体制



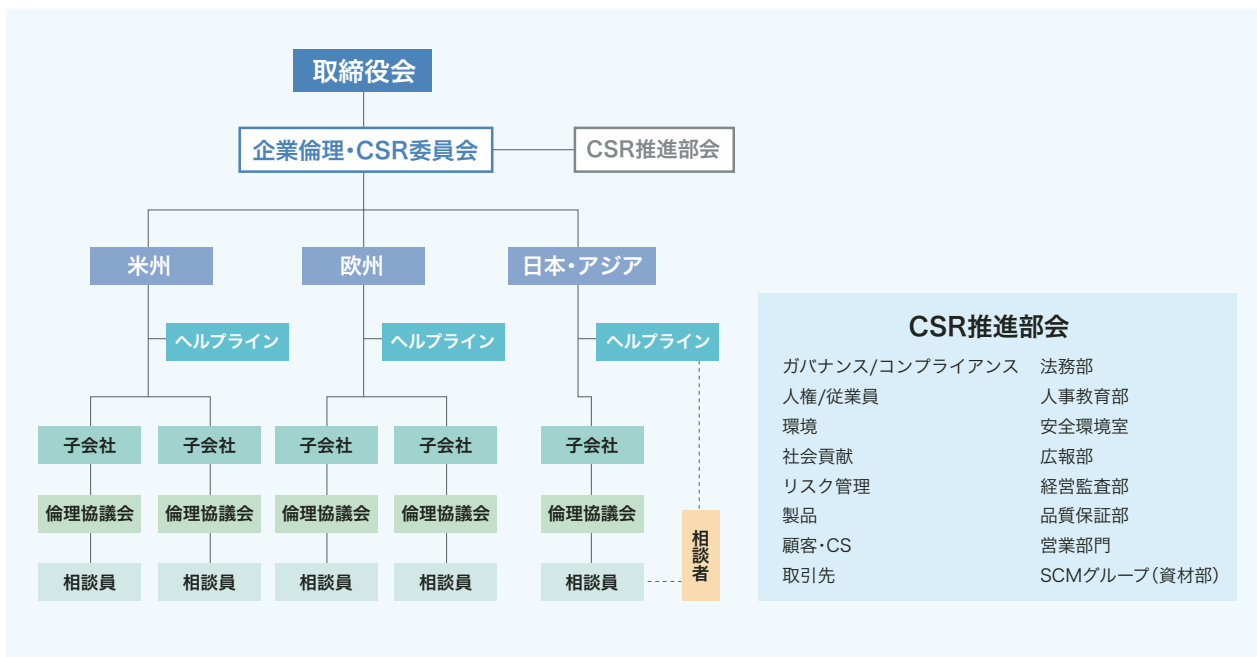
## コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組み

### 企業倫理・CSR委員会

当社では2002年、企業倫理綱領を制定し、公正、公平、法律遵守、地球環境保護など、TDKグループ企業に勤める者の行動上の指針を示しています。そして、同年より企業倫理委員会(=現企業倫理・CSR委員会)を設置して、全世界のTDKグループ企業における企業倫理綱領の遵守状況を調査し、違反の是正を行っています。また、相談窓口を各子会社に設け、さらにTDKグループの全従業員がいつでも自由に連絡できるヘルプラインを設置しています。さらに、TDKグループ企業での講習会、入社時教育、階層別教育など、倫理綱領を徹底するための教育を行っています。

### CSR推進部会

CSRの推進を円滑に行う目的で、企業倫理・CSR委員会の下部組織としてCSR推進部会を設立しました。CSRに関する各部門の情報を共有化するとともに、関連する部門の課題抽出および改善に取り組みCSRという視点で経営品質の向上を図る活動を推進しています。



### SOX法および日本版SOXへの対応

米国では、2000年代前半に企業不祥事が続発したことを受けて、コーポレート・ガバナンスに関する極めて厳しい法律であるサーベンス・オクスレー法(SOX法)が制定、施行され、米国で上場している外国企業にも適用されました。当社はCOSO\*のフレームワークに基づき、内部統制の構築を徹底し、文書化整理や内部

監査制度の充実を図りながら、全社的な取り組みを進めた結果、遅滞なき対応を実現することができました。また2008年4月に施行される金融商品取引法第24条(いわゆる日本版SOX)についても、同様の取り組みを進め、万全を期しております。

\*1992年に米国のトレッドウェイ委員会組織委員会(COSO)が発表した内部統制の“世界標準”となるフレームワーク。

### リスク管理委員会

TDKグループとして、危機管理に加え、事業リスクへのマネージメントを強化し、事業活動が抱えるリスクに適切に対応するため、常務執行役員を責任者とする経営会議直属のリスク管理委員会を設立し、全社的なリスクマネージメント(ERM)の導入と推進を図っています。

## 環境循環型企業を目指して

### TDKアモイの取り組み

#### はじめに

TDKでは、環境循環型企業の構築を目指し、本体・グループ全社を挙げてゼロエミッション活動に取り組んで参りました。その結果、国内本体工場及び子会社は2003年度までにすべての事業所でゼロエミッションを達成し、海外事業所は19カ所すべてで2006年度に達成いたしました。

#### TDKアモイの取り組み

海外生産比率は年々上昇しており、特に中国には過半が集中しています。その一つが、フェライトコア、電源トランス、コンデンサ、コイルなどの生産拠点であるTDKアモイ(TDK Xiamen Co., Ltd.)です。

TDKアモイでは以前より環境保護活動に力を入れ、国際標準化機構が定めた環境マネジメント・システムであるISO14001に関連する体制を構築してきました。

このたび、節水や省エネ活動によりアモイ市より「資源節約先進企業」としての表彰を受けました(節水表彰は2006年5月、資源節約表彰は2007年1月)。省エネ活動により原単位使用エネルギーが改善されたこと(0.56トン標準石炭/万元)、漏洩防止と節水で一日795トンの節水ができたこと、原単位使用水量が改善されたこと(3.75トン/万元)などが、その理由です。



具体的には、TDKアモイでは次のような取り組みを行いました。

#### ■ ファンの効率改善

大型ファン10台のモータを11kw⇒ 5.5kw、1台を18.5kw⇒ 7.5kwに変更しました。負荷の低い2台を1台に統合し、1台を停止しました。

#### ■ 空調冷却塔の改善

個別空調(大型水冷式)の冷却塔の運転を自動化しました。

#### ■ 大型モータのコンデンサ容量を変更

コンプレッサ、冷却水ポンプなど大型設備のモータのコンデンサ容量を減らし、損失を改善しました。

#### ■ 圧縮空気配管改善

配管を太くして圧力損失を減らしました。コンプレッサにインバータを導入し、自動調節を可能にしました。

#### ■ エアコン冷却塔の移設

中央空調機の冷却塔の近くに焼成区があり、放熱がよくないので、H棟屋上の放熱がよい場所に移設しました。

#### ■ 変圧器に自動力率調整器を取り付け

変圧器に自動力率調整器がついていないため、効率は0.87でしたが、それをつけたため、効率は0.96まで改善されました。

#### ■ 空調機制御を自動化

中央エアコンに自動制御装置を導入し、冷却効率を高めました。

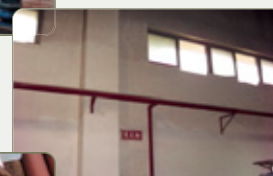
#### ■ 用水使用の改善

水の循環使用や蛇口改善などにより、一日2,900トンのうち約800トンを節水しました。

#### ① 洗浄水回収沈殿池



#### ② 地下消防配管を地上化し、漏水対策を徹底



#### ③ 計量器を設置し、常時監視、漏洩予防



#### ④ アセトン再生装置冷却水を緑地の散水に再利用



#### まとめ

今後、海外での生産比率の上昇とともに、排出物の量・種類とも増加することが予想されます。TDKでは、これまで培ってきた技術とノウハウをもとにゼロエミッション活動を継続し、資源循環型企業の構築を目指して、地球環境に貢献していきます。



## 一人ひとりの能力を最大限に伸ばす「成長目標プラン」

TDKでは「企業は道場である」を人材育成の基本理念の一つの柱とし、「自律型人材の育成」すなわち、「自ら考え、主体的にビジネス活動が行える人材」の育成に積極的に取り組んでいます。この教育理念の実現のために、TDKでは、2005年から社員の能力を最大限に伸ばす全社運動として、「成長目標プラン」を実施しています。

この「成長目標プラン」とは、期首目標設定の場で、社員と上司が職務に必要な能力(知識・技能・資格等)を再確認し、能力の伸長が必要なものを自己の成長目標として設定し、上司とともにその達成を目指すことで、社員一人ひとりの能力の成長と業務成果への反映を促すものです。

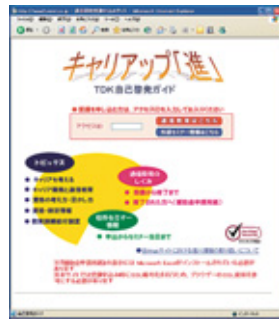
### 成長目標プランへの支援

#### ① キャリアアップ

通信教育講座/社外セミナーを小冊子にまとめ国内子会社含め社員全員に配布し、必要な時に適切な学習がスタートできるようにしています。通信教育が修了した場合には受講料の一部を援助しています。



案内テキスト



受講申込専用サイト

#### ② TDK資格取得奨励制度

国家資格等が必要な業務に対する準備、およびプロフェッショナル人材育成の一助として、業務に必要な国家資格、公的資格等を整理し紹介しています。

資格を取得した社員には、その資格によって定められた資格取得奨励金を支給し、難易度の高い資格を取得した社員には、人事担当役員による表彰が行われます。

#### ③ その他の人材育成制度

##### ①『留学制度』

業務上必要な高度専門知識を有する人材を育成するために、社内研修のみならず、社外の専門機関に中長期にわたり社員を派遣し、プロフェッショナル人材を養成する制度です。経営コース・法務コース・技術経営コースがあり、MBAやMOTの学位を取得することも可能になります。

##### ②『部門別研修の促進』

全社教育体系とは別に、部門ニーズに即して、それぞれの職場で自主的に教育研修を実施するために、部門での教育企画、運営をサポートする制度を整えています。

### 自己啓発キャンペーンの実施

#### □目的・概要

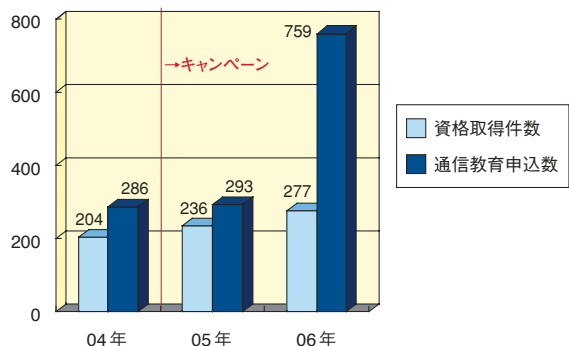
社員が常に“自己成長”する風土をさらに推進していくため、2005年度・2006年度において、自己啓発キャンペーンを実施しました。2005年度では、「自己成長や社会貢献を目的とした活動計画(チャレンジプラン)」を募り、入賞者に援助資金と有給休暇を付与。2006年度は、「資格取得者の海外研修への参加(香港を予定)」「通信教育優秀修了者の受講料全額援助」を行いました。

#### □効果

キャンペーン実施の2005年以降、資格取得件数および通信教育申込数とも増加しています。

#### □今後の予定

今後は、“キャンペーン”という組織的な啓蒙活動ではなく、若手社員のキャリア開発目標設定を積極的に支援することにより、自主的に自己成長を目指す仕組みをつくっていきたいと考えています。



## スポーツ&音楽教育プログラム

### 「有名陸上選手による訪問指導」と 「公開リハーサル・アウトリーチミニコンサート」

当社の社会貢献活動は、社是「創造によって文化、産業に貢献する」という企業精神がベースになっており、人間の心を高揚させ、感動を与えてくれるスポーツや芸術活動を支援しています。TDKは、世界陸上選手権の1983年第1回大会より、オフィシャルパートナーとなり、現在は男子ゼッケンスポンサーとして協賛しています。そして陸上競技を学ぶ

学生の技術と意識の向上を目的に、各大会組織委員会と協力して、社会貢献プログラムを実施しています。また、音楽を学ぶ人々を対象にした世界一流のオーケストラの公開リハーサル鑑賞、そしてそのオーケストラ楽団員に学校へ出向いて演奏してもらうアウトリーチ(出張)ミニコンサートを実施しています。

#### スポーツ教育プログラム

2007年5月、「TDK世界陸上イメージキャラクター」である三段跳び金メダリストのクリスチャン・オルソン選手による社会貢献プログラム「ヤングアスリートトレーニングプログラム」を大阪の長居陸上競技場で行いました。関西学生陸上競技連盟に所属する大学生跳躍選手約60名が参加。オルソン選手は自身のコーチと一緒に、自分が普段行っているランニングとストレッチを教え、1人ずつに跳躍の指導をしました。TDKは過去にも、世界陸上選手権時に若年層への教育プログラムを実施しており、今後も本選手権に絡めた教育プログラムを実施していく予定です。



学生に跳躍のアドバイスをするオルソン選手

#### 音楽教育プログラム



公開リハーサル鑑賞に招待された学生たち



##### ●公開リハーサル鑑賞

2001年からスタートしたTDKオーケストラコンサート公開リハーサルは、普段なかなか目にすることのできない世界の一流指揮者と楽団員が行う、生のリハーサル現場に立ち会い、その音作りを体験するという貴重なプログラムです。2006年は、ユーリー・テミルカーノフ氏が率いるロシアのサンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の公演に、音楽を勉強している学生の方を150名ご招待しました。さらに、学生の方から指揮者や楽団員への質問も募集。その主な質問に対する回答をリハーサル当日に配布しました。

##### ●アウトリーチミニコンサート

次代を担う若い人たちに、世界一流のオーケストラ団員による演奏を目の前で鑑賞することで、本物のクラシック音楽に触れてもらい、興味や親しみを持ってもらいたいという思いから、2003年より弊社が協賛するオーケストラコンサートの楽団員に、ボランティアで小中学校を訪問し、演奏していただく企画を実施しています。2006年は、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団の金管楽器首席奏者“ロシアン・プラス”による高校生へのレッスンとミニコンサートを、都内で行ないました。



ロシアン・プラスによるレッスン

## お客様との関わり

### あらゆるお客様に応える品質水準を目指します。

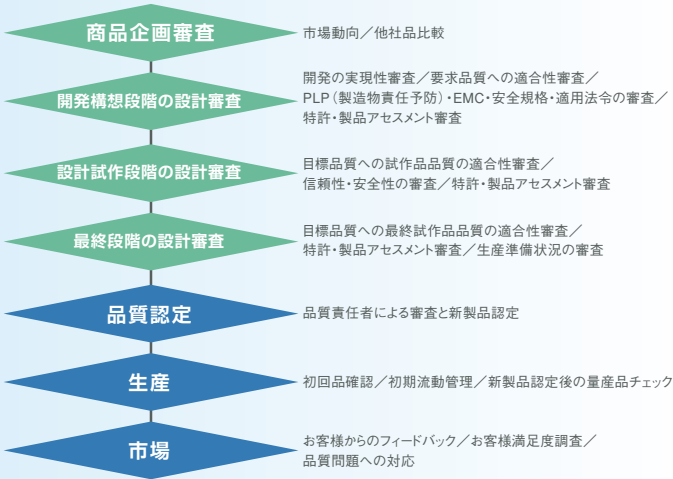
#### TDKの考える品質保証

TDKでは、品質保証の基本理念として“ゼロデフェクトの追求”を掲げています。出荷段階の“ゼロデフェクト”はもちろん、流通段階、セットメーカー様のご使用段階、最終ユーザー様のご使用段階、そして廃棄にいたるまでの“ゼロデフェクト”を追求していきます。そして全世界のあらゆるお客様と法規制の要求に応える品質水準を実現するために「仕組み」「技術」「人」の3つのQualityをテーマに“ゼロデフェクト”を展開し、「国内外のどの拠点で製造されたTDK製品も、まったく同じ品質であること」「その品質は、全世界のあらゆる市場と法規制の要求に応える国際水準ナンバーワンであること」「さらに、それは、お客様の要求を満たすことはもちろん、他のお客様にも紹介したくなるほどの品質であること」を目指していきます。

※ゼロデフェクト (Zero Defect) : 無欠陥のこと。  
TDKでは不具合ゼロの意味で使っています。



#### TDKの開発・量産化の品質システム



#### 品質マネジメントシステム

TDKが生産する製品は、世界各地域を問わず、TDKの品質マネジメントシステムにもとづいて設計・生産され、品質保証されたものです。安全性、信頼性、製品含有化学物質については、独自の基準・規程を制定し、その徹底を図っています。

#### 新製品開発の各段階で実施される設計審査により、高品質を保証

設計審査は、設計開発部門だけでなく、品質保証部門をはじめ関係部門が参加して行われています。その目的は、開発構想から最終試作にいたる各段階のあらゆる問題点をチェックし、量産に移る前に品質問題の発生を未然に防ぐためにあります。

#### 電子部品におけるCS(お客様の満足)活動

TDKでは次の3つの方法で「お客様満足度」を把握し、お客様に、品質・コスト・納期・環境・サービス面で総合的にご満足いただけることを目指しています。

- お客様にTDKを評価していただく「サプライヤー評価情報」を設計にフィードバックし、CS向上を図っています。
- お客様からいただく「製品苦情情報」をオンラインで関連部門に送り、すばやいアクションに結びつけることでCS向上を図っています。
- 営業担当がお客様の立場で評価する「CS評価」により、お客様の不満の内容を関連部門にフィードバックし、CS向上を図っています。



## 株主・投資家との関わり

誠実で公平な情報開示を続けています。

### 情報開示に関する基本方針

TDKグループは、秘密情報を除き、公衆が必要としている情報を適時かつ正確に開示することで、経営の公正と透明性を維持します。TDKグループは、顧客、取引先、従業員、株主、投資家等が各々の立場でどのような情報を必要としているのかを把握し、

広報、総務、営業、購買等の関連機能、あるいは、事業所の各担当部署を通じて、公平に、誠意を持って対応します（「TDK企業倫理綱領」第2章 企業行動基準より）。

### IR活動の目的

TDKはIR活動の目的は、誠実かつ公平な情報開示により、株主、投資家、アナリスト等のステークホルダーの皆様への説明責任を十分に果たし、長期的な信頼関係を構築すること、信頼や評価を得ることにあると考えております。この目的のため

に、必要とされる情報を継続的に提供するとともに、外部者の視点によるご意見を経営改善に活用するためのIR活動を展開いたします。

### IR活動の積極的な推進

資本市場参加者（株主、投資家、証券アナリストなど）の皆様に対し、経営戦略や事業方針について明確かつ受け手の要請に充分応える情報を提供しなければならないと考えています。

そのため、決算説明会などの場において、経営者自らが資本市場参加者に対して直接語りかけていきます。

### IR活動の内容

ウェブサイトを通じて事業内容、財務内容、経営戦略、その他の重要な経営情報を公平に分かりやすく伝えることを目指します。決算説明会はウェブサイトを通じて、生中継・録音中継による音声配信を日本語と英語で行っています。印刷物としては、トップメッセージと決算情報を記載したアニュ

アルレビュー、過去11年分の財務情報を記載したインベスターズガイドを日本語と英語で毎年発行しており、株主の皆様には株主通信「TDK Today」を四半期決算発表後に送付しています。また、アニュアルレポートとして英語版の印刷物を発行しています。



TDKウェブサイト「株主・投資家情報」



## 調達取引先との関わり

### 信頼と協力がすべての基盤です。

#### グローバル・パートナーシップ購買

TDKは、日本およびアジア、アメリカ、ヨーロッパに生産拠点を置いてグローバルに生産活動を展開しています。これを支える調達活動は、電子業界のスピード競争に追従できるグローバルな購買体制の確保が重要です。特にITネットワークを活用したユビキタス社会における資材調達活動は、時間と空間を超えて、

取引先とのより一層緊密なコラボレーションが不可欠となっています。また、関連法令、社会規範の遵守、地球環境の保全など企業の社会的責任を果たす取組みについても、取引先と当社のパートナーシップによって積極的に推進していきます。

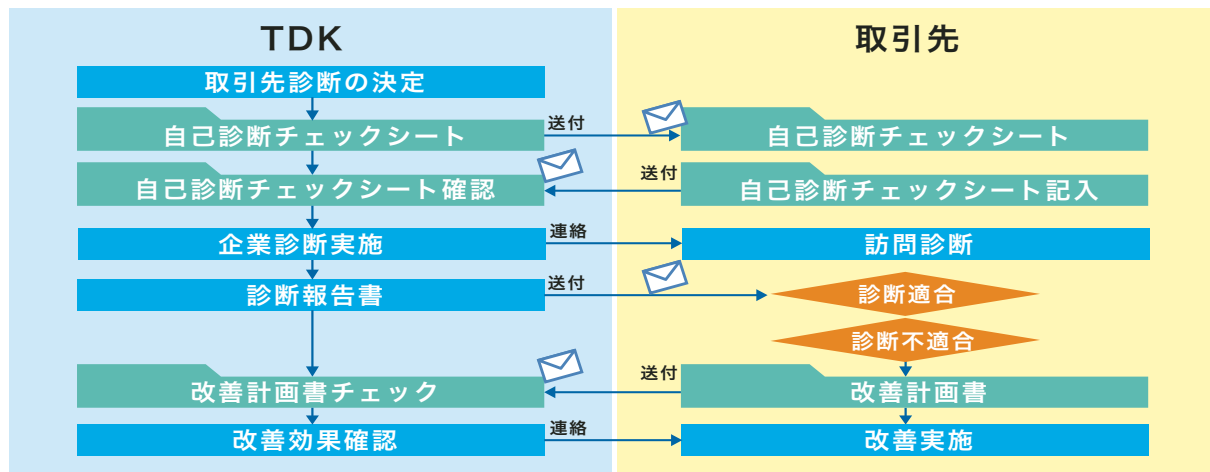
#### TDK購買方針

- 購買活動にあたっては、関連法規を遵守いたします。また、法律個々の条項ばかりでなく、その精神をも尊重するように務めます。
- サプライチェーンのいかなる場においても、構成員の人間の尊厳が重視されるよう務めます。
- 地球との共生を旨とし、全社環境保全活動の一環として、環境に配慮した物品の調達(グリーン調達)を推進します。
- 企業規模、国籍を問わず公平に取引を行います。品質、価格、納期、安定供給など総合的に公正な評価をして取引を行います。
- 取引先は、共通な目標のもとに良好な相互補完関係を築くことを目指します。
- VE活動によるコストの改善、新材料、新技術の提供ができる取引先を重視します。
- IT、ネットワークを活用した取引先との情報交換は、業務のスピードアップ、連携強化に不可欠と考えます。

#### 企業診断

TDKでは、原材料、部品を購入している取引先の企業診断を実施しています。診断結果とともに「是正依頼」「要望事項」を取引先に提出し、対応を求めています。また、TS16949品質システム構築が必要な取引先に対して、第三者認証を行っております。

2007年3月現在、370社の企業診断を終了しています。



#### グリーン購入

TDKでは、取引先の環境管理状況及び購入資材に関する調査を行い、グリーン調達を進めてきました。

RoHS指令等の世界各国の法律を遵守し、お客様の要求に応えるために改訂を実施し、当社のホームページに公開しました。また、グリーン調達基準書Ver.3を発行し、すべての取引先に配布いたしました。



## 従業員との関わり

### 人材育成は繁栄の源泉です。

#### 人事に関する基本的な考え方

TDKは「企業永遠の繁栄の源泉は人の育成にある」という人事の基本理念に則り、従業員一人ひとりが個人として尊重され、それぞれが自律的かつ最大限に能力・可能性を伸ばし発揮できる「環境」と「仕組み」をつくることを目的として、様々な施策を進めています。

#### 人事制度の概要

人事制度の根幹となる評価・報酬制度は、「発揮能力」と「成果」に着目した「自己管理制度」を基礎としています。これは単なる評価制度ではなく、従業員一人ひとりの能力、自律意識、参画意識を高めること、上長と部下のコミュニケーションを強化する

ことを主眼としています。2006年度からは、既存の人事制度を再点検し、経営理念に根ざす不易なもの(チャレンジ精神・本音の討議)と、社会環境や事業の変化に対応したものとを峻別しながら、人事教育体系の再構築に取り組んでいます。

#### 一人ひとりの能力を最大限に伸ばすための仕組み(能力開発・育成プログラム)

##### ■2007年度 新教育研修プログラム

2007年度から、将来の経営幹部候補として必要となる経営の基礎知識を体系的に習得する「主幹候補者育成研修」を導入します。

##### ■技術リーダー教育

「もの創り」を研究・開発の視点から追及し、実際の行動の中で革新をもたらすことのできる技術リーダーを育成することを目的に導入しています。

##### ■海外大学への技術者派遣(共同研究)

アメリカのマサチューセッツ工科大学、ペンシルバニア州立大学への技術者派遣を行っています。

##### ■留学制度

3コースの留学制度を設け、業務上必要なプロフェッショナル人材の育成を図っています。

##### ■IMD(International Management Development Seminar)研修

国籍を超えた連携の強化を主目的とした研修です。

##### ■主な能力開発支援制度

「資格取得奨励制度」「通信教育奨励制度」を実施しています。



#### 人事諸制度について

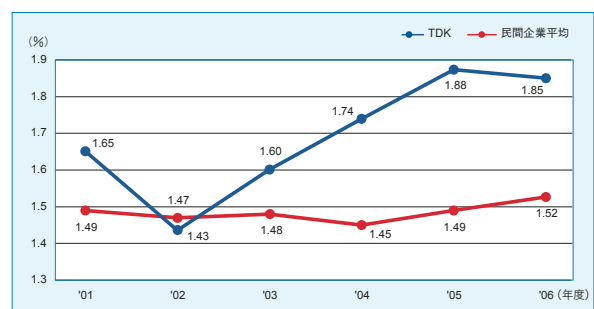
■一人ひとりのポテンシャルを最大限に引き出すための仕組み  
「キャリアオプション制度」「プロジェクトマネジャー年俸制」「自己申告制度」「フリータイム制度、フレックスタイム制度」を構築しています。

##### ■人権尊重・機会均等への取り組み

～ダイバーシティ・アクション推進プラン～

従業員の専用相談窓口の設置、育児・介護に関する諸制度の整備を実施しています。また、多様な人材を登用・活用するため「ダイバーシティ・アクション推進プラン」を実施しています。障害者雇用、定年退職者の再雇用にも積極的です。

#### 障害者雇用率の推移(TDK本体)



#### 安全衛生・健康管理について

##### ■OHSMSの導入

労働災害のリスクを一層低減させるために、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を2000年に導入しました。2008年3月までには国内全製造拠点への導入を目標に進めています。

##### ■従業員の健康管理

主要な事業所に産業医、保健士、歯科医を配置し、健康相談、歯科診療が日常的に受けられる環境を整えております。また、心の健康管理についても、従業員が気軽にカウンセリングを受けられる体制を整えるとともに、講習会なども開催しております。



心の体操講座

## コーポレートコミュニケーション

社会が必要とする情報を公平・適時に開示しています。

### 広報活動

情報を公平かつ適時に開示するため、ニュースリリースの発行や取材対応および記者発表、ウェブサイトの運営などを行っています。ステークホルダーの皆様からご意見をいただくための取り組みにも意欲的です。



What's TDK?



インダクタワールド



会社案内



TDKウェブサイト

### 社会的責任投資への対応

「社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)」の広がりに対応し、積極的に情報を開示。社会的責任投資インデックスやモーニングスター社会的責任投資株価指数の構成銘柄に組み入れられています(2007年3月現在)。



## 地域社会との関わり

健全で豊かな社会の発展に貢献しています。

### 「学術・研究/教育」分野における取り組み

大学の研究室に対する助成金援助、海外有力大学との産学共同プロジェクト、ものづくり工作教室などを展開。学生や教員の工場見学、職場訪問などにも協力しています。



やってみよう! 電子工作教室(甲府工場)

### 「スポーツ/芸術・文化」分野における取り組み

「世界陸上選手権」に男子ゼッケンスポンサーとして協賛。また、世界の一流オーケストラの日本公演に協賛し、リハーサルと本番への音楽を学ぶ方のご招待や学校への出張指導などを行っています。



有名陸上選手による指導(大阪)

### 「環境保全」分野における取り組み

事業所周辺の清掃、隣接地域の美化運動、植樹による緑化活動などを実施。秋田県由利本荘市・にかほ市の「ゆり海岸林再生プロジェクト」へ資金援助と人的援助も行っています。



ゆり海岸林再生プロジェクト(秋田)

### 「社会福祉・地域社会活動」分野における取り組み

高齢者や児童福祉施設でのボランティア活動、寄贈活動や募金活動、地域との国際交流などを実施しています。



児童福祉施設で子ども達と交流(TDK FUJITSU Philippines Corporation)





## 環境ビジョン

### 長期的視点で環境保全に取り組んで参ります。

#### 環境ビジョン「TDK環境活動2015」

TDKでは、グループ全体の環境方針として、「環境基本理念」と「環境方針」からなる「TDK環境憲章」を制定し、社会の持続可能な発展を目指しています。これに基づき、具体的な活動の基本計画として「TDK環境活動2015」を策定し、実践に努めております。

社会の持続可能な発展を目指し、循環型社会を実現するためには、長期的な展望に基づいた環境基本計画が必要です。従来までの環境基本計画「TDK環境活動2010」を発展させ、より長期的かつグローバル化を意識した2015年までの環境基本計画「TDK環境活動2015」を、2005年12月に新たに策定し、2006年4月より具体的な活動を開始しました。「TDK環境活動2015」では、当社の事業特性に基づく具体的な5つの活動項目が設定されており、全社がその達成のために取り組んでいます。この「TDK環境活動2015」は毎年見直しされており、2007年4月に改定が行われました。





# 目標と実績

## 「TDK環境活動2015」2006年度実績

2006年度は下記の通りの目標と実績となりました。

実施項目	対象	2006年度目標		実績
<b>1. 温暖化対策</b>				
(1) 生産拠点における取り組み	グローバル	グローバルCO <sub>2</sub> 削減目標値を2006年9月末までに策定	①グローバルエネルギー管理システムの構築	・ TDK環境活動2015策定時に目標設定 ・ CO <sub>2</sub> 排出量 2005年度比 1.5%削減
	日本	CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比同等以下	①エネルギー原単位 前年度比1.5%以上改善 (うち固定エネルギー前年度比1.0%以上削減) ②エネルギー管理構築度の向上 全製造拠点:内部評価90点以上 ③生産方法、設備改善による固定エネルギー削減	・ CO <sub>2</sub> 排出量 1990年度比 4.3%増加 (2005年度比 1.1%削減) ・ エネルギー管理構築度 全製造拠点:内部評価90点以上達成
	海外	CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ※国別CO <sub>2</sub> 削減目標値を2006年9月末までに策定	①エネルギー使用量把握精度の向上 ②エネルギー原単位 前年度比1.5%以上改善 ③各国状況に合わせた目標値の設定 (各国のCO <sub>2</sub> 排出係数の調査)	・ CO <sub>2</sub> 排出量 2005年度比 1.8%削減
(2) 物流における取り組み	日本	物流のCO <sub>2</sub> 削減目標値を2007年9月末までに策定	①製品の物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握精度の向上 ②排出物の物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握開始	・ 製品の物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握精度の向上 ・ 排出物の物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握開始
	海外	物流の国別CO <sub>2</sub> 削減目標値を2008年3月末までに策定	①物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握	・ 製品の物流に関わるCO <sub>2</sub> 排出量把握システムの海外展開検討
<b>2. 排出物対策</b>				
	日本	社外再資源化原単位 2005年度比1.0%以上改善	①発生抑制 ②社内再利用の促進 ③排出量を考慮した拠点毎目標の設定	・ 社外再資源化原単位 2005年度比3.7%改善
	海外	全製造拠点のゼロエミッション達成	①各国現状に合わせたリサイクルの推進 ②発生抑制 ③分別	・ 全製造拠点のゼロエミッション達成
<b>3. 環境リスク管理 (VOCの大気放出量の削減)</b>				
	日本	VOCの大気放出量を2000年度比24%以上削減	①排出量を前年度比10%以上削減 ②VOC排出マップに基づく発生源対策実施 ③VOC法規制対応と自主行動計画の実施	・ VOCの大気放出量を2000年度比24%削減
<b>4. 環境配慮型製品の創出推進 (製品環境マネジメントシステムの運用)</b>				
(1) 購買における取り組み (サプライヤー)	グローバル	環境に配慮した部材の優先購入 (グリーン調達)	①新規購入品の製品含有化学物質データの収集と検証 (グリーン調達調査の100%維持) ②データ管理と効率的利用 (部材選定、部材切替へのデータ活用)	・ 新規購入品の製品含有化学物質データの収集と検証継続 (グリーン調達調査の100%維持) ・ 収集データを基に環境負荷物質非含有の評価実施継続
(2) 設計・開発における取り組み及び製造における取り組み	グローバル	顧客からの製品環境クレームゼロ	①遵法保証 (RoHS指令、ELV指令など) (代替化・終息化・在庫管理などによる遵法保証) ②ハイスループット部材の管理強化 (ハイスループット部材受入れ検査の実施) (B.Grpと製造拠点のデータ共有化)	・ 保証体制を構築し市場問題発生なし ・ ハイスループット部材の管理強化 (ハイスループット部材受入れ検査の実施) (B.Grpと製造拠点のデータ共有化)
	国内	新製品開発時、変更時、製品アセスメント100%実施の維持	①製品アセスメント (B.Grp-製造拠点) の責任・権限・ルールの確立	・ 新製品開発時、変更時、製品アセスメント100%実施
(3) 販売における取り組み (顧客)	国内	全ライフサイクルを通じた製品の環境負荷低減の推進 (REACH規制、EuP指令の対応)	①製品の環境負荷情報の収集、評価手法・指標の検討 (資源循環、省エネ、規制化学物質フリー) ②業界標準化の推進	・ 製品の環境負荷情報の収集、評価手法・指標の検討 (資源循環、省エネ、規制化学物質フリー) ・ アーティクルマネジメント推進協議会に発起人企業として参加
	グローバル	顧客要求を満足する製品環境情報の開示	①顧客製品環境調査回答率100%、平均回答日数7日以内または10%削減 (前年比) ②出荷ラベルへの表示対応 ③不適合製品の流出防止システムの運用	・ 顧客製品環境調査回答率100%、平均回答日数7日以内達成 ・ 中国版RoHS対応における出荷ラベルの表示対応 ・ 「JEITA-Green 共同公開システム」に、電子部品の含有化学物質情報を登録し、公開。

● 単年度目標

実施項目	対象	2006年度目標		実績
5. 環境マネジメントシステムの向上	日本	①経営評価制度に基づく評価実施 ②EMS評価制度に基づくシステム及びパフォーマンスの向上 重点評価項目 (a) 遵法・自主管理基準に基づく予防管理の実施 管理基準の上限值(平均値+3σ)を法規制値の50%以下 ※ NOx、pHは現状維持以上 (b)環境コミュニティ 環境保全活動への積極的参加・参画(従業員30%以上) ・地域社会との環境交流の実施(年1回以上の企画・開催) (c)EMSの運用状況・有益な環境側面を考慮したテーマ設定とその推進 ・土壌リスク評価結果に基づく予防管理の実施		①経営評価制度に基づく評価実施 ②EMS評価制度に基づくシステム及びパフォーマンスの向上 (a) 遵法 ・自主管理基準超過3件(再発防止策により、対応済) (b)環境コミュニティ ・各種の環境保全活動 延べ4,900人参加 ・環境保全活動参画 61件実施 (c)EMSの運用状況 ・有益な環境側面を考慮したテーマ 80件設定 ・土壌リスク評価結果に基づく予防管理の実施継続
	海外	①経営評価制度に基づく評価実施 ②EMS評価制度に基づく継続的改善 重点評価項目 (a) 遵法 ・法規制値の遵守 ・自主管理基準に基づく予防管理の実施 (b)環境リスク管理 ・化学物質の環境への排出状況の把握 (c)環境コミュニティ ・環境保全活動への積極的参加・参画		①経営評価制度に基づく評価実施 ②EMSに基づく継続的改善 (a) 遵法 ・1事業所除き法規制値遵守 (b)環境リスク管理・化学物質の環境への排出状況の把握実施 (c)環境コミュニティ・地域に応じた環境保全活動への参加・参画実施

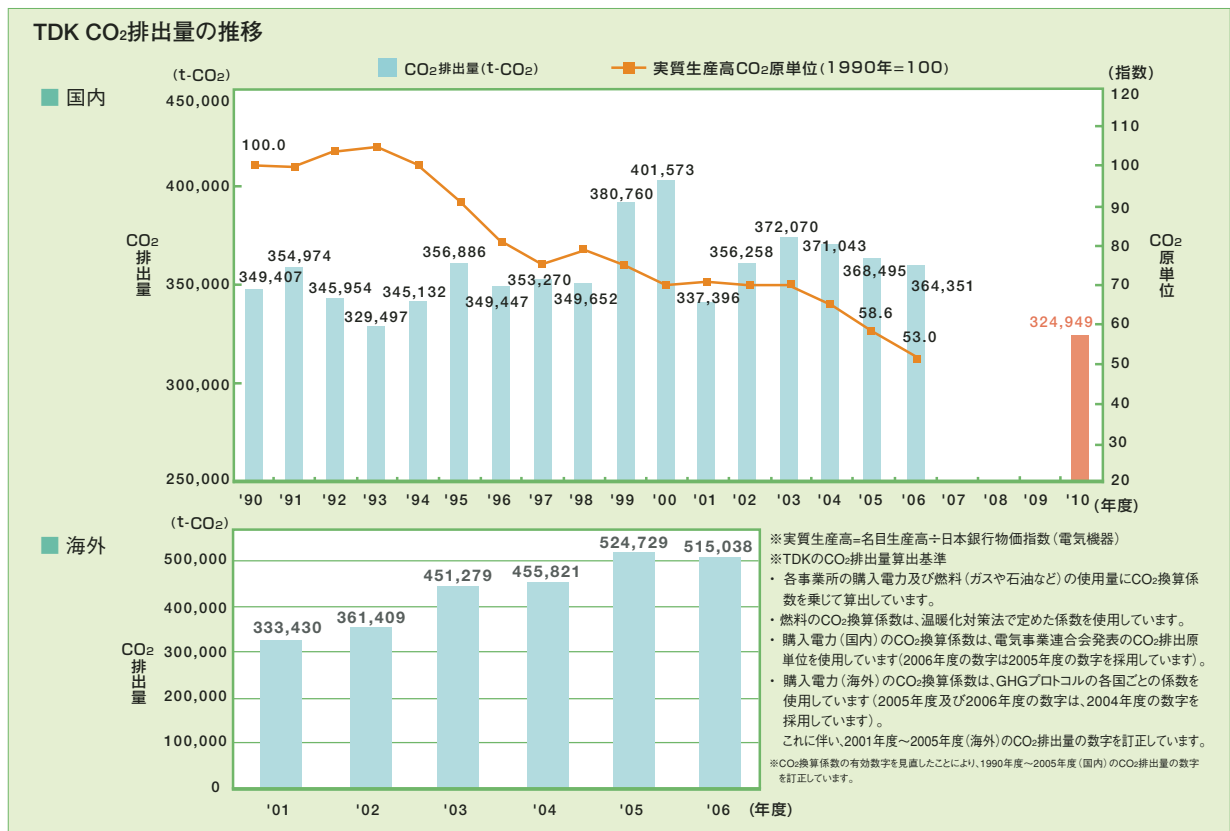
## 温暖化対策

### グローバルでのCO<sub>2</sub>削減に成果を上げています。

#### 生産拠点における取り組み

TDKの事業活動で排出される温室効果ガスの大半は、生産拠点でのエネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出です。これを削減するため、様々な省エネルギー活動を推進してきました。2006年度から活動を開始した「TDK環境活動2015」において、グローバル

でのCO<sub>2</sub>削減目標を新たに掲げております。そして中期目標である「2011年3月までにCO<sub>2</sub>排出量を1990年度比7%以上削減」(国内CO<sub>2</sub>排出総量で324,949t-CO<sub>2</sub>以下)の達成を目指します。



#### エネルギー管理内部監査

エネルギー管理体制を向上させる仕組みとして、「エネルギー管理運用要領」を制定し「エネルギー管理内部監査」を導入しました。2006年度は、国内全製造事業所で評価点90点以上の目標を達成しました。



燃料転換 LNGタンク(静岡工場)

#### CO<sub>2</sub>削減に向けた具体的取り組み

同じ熱量でCO<sub>2</sub>排出の少ない燃料への転換を進めております(燃料転換)。また、再生可能エネルギーの導入として、甲府工場、海外製造子会社の長安地区工場の太陽光発電システムにおいて、着実な成果を上げています。

#### 物流に関わるエネルギー使用量の削減

2006年度の物流に関わるCO<sub>2</sub>排出量は、5,363t-CO<sub>2</sub>(TDK本体)でした。2007年度は、さらに効率化を進め、エネルギー原単位1%削減を目標に取り組みを進めます。



## 排出物対策

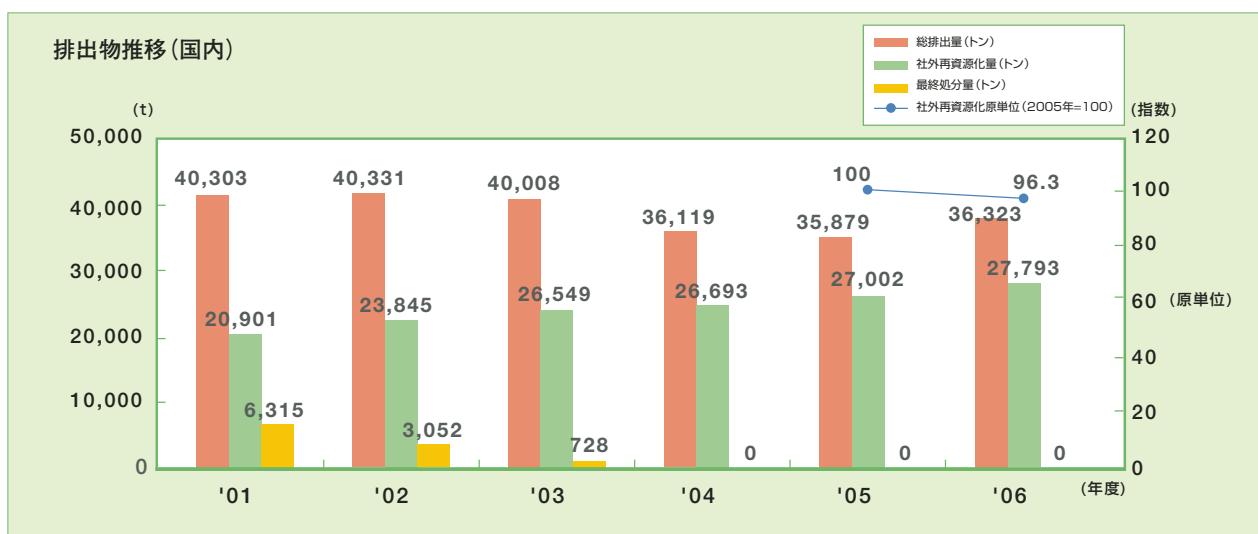
### 全サイトでのゼロエミッションを達成しました。

#### グローバルでゼロエミッション達成

TDKでは、国内全サイトで2003年度にゼロエミッションを達成。海外サイトについては、2006年度に全サイトで達成となりました。今後は、資源有効活用の観点から、排出物の発生抑制を重視し、ゼロエミッション活動の質を向上させていきます。

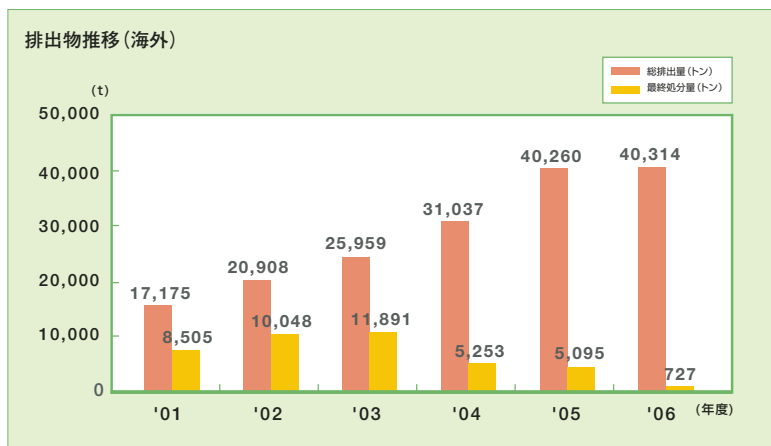
#### 国内サイトでの取り組み

国内サイトでは、2016年3月までに社外再資源化原単位2005年度比10%以上改善の目標を掲げ、取り組みを進めています。2006年度の社外再資源化原単位は前年度比3.7%改善となりました。



#### 海外サイトでの取り組み

2005年度までに全19サイト中13サイトでゼロエミッションを達成しており、2006年度は残る6事業所がゼロエミッション達成に向けて再資源化の方策を重点に取り組みました。その結果、2006年度にすべてのサイトでゼロエミッションを達成しました。



中国地区第2回ゼロエミッション会議(2006年11月上海にて)

## 環境配慮型製品の創出推進

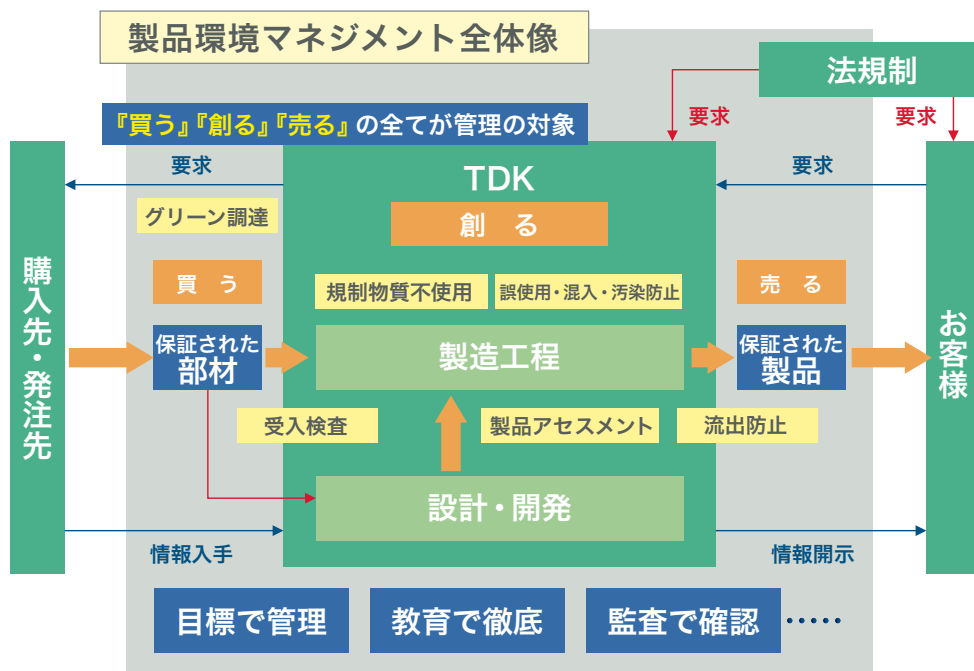
### 禁止化学物質の全廃化

法規制、顧客要求、社会動向に配慮して制定した「TDK製品環境保証基準書」に従い、製品に含有するTDK禁止化学物質の全廃化を進めてまいりましたが、2004年末をもって、汎用電子部品での対応を完了いたしました。

### 製品環境マネジメントシステムの確立

TDKでは、「製品に規制化学物質が含まれないように管理するためのシステム」として、2004年に「製品環境マネジメントシステム」を導入いたしました。その2年間の運用実績をふまえ、マネジメントをさらに徹底するために、品質マネジメントシス

テム(QMS)との統合を実施いたしました。将来的には、資源循環や省エネルギーも含めた総合的な製品の環境配慮に対応できるようなシステムになっております。



### 情報の一般公開

2006年にインターネットサイトの「JEITA-Green 共同公開システム」\*に、電子部品の含有化学物質情報を登録し、公開いたしました。2007年5月末現在、積層セラミックコンデンサ、各種インダクタ、NTCサーミスタなど約4541件の汎用電子部品

を登録しております。また、TDKホームページにも上記サイトへのリンクを設けております。

\*JEITA-Green 共同公開システム：  
 (社)電子情報技術産業協会(JEITA)が経済産業省委託事業の一環として、電子部品の含有化学物質に関する電子情報の流通基盤を確立すべく実施したプロジェクトにより構築されました。登録された電子部品の環境情報コンテンツを無料で検索することが出来ます。

### 新たな法規制への取り組み

中国の電子情報製品汚染防止管理弁法(中国版RoHS)への対応を行っているほか、2007年7月1日に施行されたEUの新しい化学物質規制であるREACH規制に対しては「原材料・副資

材(化学物質/調剤)および購入部材(成形品)の化学物質管理データベースの整備」、「販売製品の情報開示のためのシステム化」を進めております。



## TDKの環境配慮型製品

### MDコートタイプの希土類磁石(ネオジウム・鉄・ボロン系マグネット)



希土類磁石は、腐食を防ぐために表面処理が不可欠ですが、従来製品の表面処理は低腐食使用環境には過度な信頼性を有していました。この製品の表面処理(MDコート)では、低腐食使用環境に合わせて簡素化した耐食性を実現することにより、環境負荷も低減しております。

主な環境負荷低減効果:

- (1) 従来の製造方法に比べて、廃棄物の削減を実現しました。
- (2) 製品製造時の省エネルギーを実現しました。
- (3) 自動車の電動パワーステアリング(EPS)\*のモータに使用されています。
- (4) リサイクル時の処理の簡素化を実現しました。

\*EPS=常に油圧ポンプを回す必要がある油圧パワーステアリングに比較して、必要なときだけモータでアシストするシステムのため、燃費が向上します。

### ハイブリッド自動車用DC/DCコンバータ

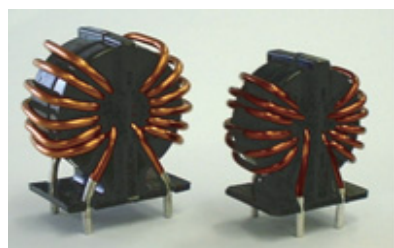


この製品は、直流を高周波の交流に変換しそれをまた直流に変換するもので、ハイブリッド自動車に使われています。

主な環境負荷低減効果:

- (1) 効率を向上し、製品使用時の省エネルギーを実現しました。
- (2) 容積・重量とも、ほぼ半減し、省資源化を実現しました。
- (3) 使用ネジ数を約30%削減することにより、省資源化・解体配慮設計を実現しました。
- (4) 使用するはんだを変更することにより接続部の耐久性が向上し、長寿命化を実現しました。

### ラインフィルタ



この製品は、外来ノイズによる機器の誤動作防止や、機器で発生したノイズによる他の機器・設備への障害を防止するために取り付けるものです。

主な環境負荷低減効果:

- (1) 同一特性で30%小型化し、省資源化を実現しました。
- (2) 発熱量を25%削減し、省エネルギーを実現しました。
- (3) 包装材の材質を変更し、リサイクルを可能にしました。

### アンプ付きアモルファスシリコン可視光センサ



各種携帯機器やデジタルカメラでは、可視光センサの出力を利用してディスプレイの輝度を調整し、バッテリー消費を低減しています。この製品では極小センサ内のアンプで受光部からの信号を増幅することにより、光感度波長範囲が人間の視覚領域に極めて近い特徴を維持したまま出力電流の大幅な向上を達成した製品です。

主な環境負荷低減効果:

- (1) 面積を小さくし、省資源化を実現しました。
- (2) 単位面積あたりの光電流、面積利用効率を増やすとともに、消費電力を低減することにより、製品使用時の省エネルギーを実現しました。
- (3) ESD(静電気放電)耐圧を向上させ、長寿命化を実現しました。

## 企業概要

商号	TDK株式会社(英文商号:TDK Corporation)
本社	東京都中央区日本橋1-13-1
設立	1935年12月7日
資本	32,641,976,312円(2007年3月末)
従業員数(連結)	51,614人(2007年3月末)
売上高(連結)	8,620億円(2007年3月期)
純利益(連結)	701億円(2007年3月期)

## ビジネスの概要

### 【電子素材部品部門】

#### <電子材料>

主要製品:積層セラミックチップコンデンサ、コイル・トランス用フェライトコア、フェライトマグネット、希土類マグネット

#### <電子デバイス>

主要製品:コイル(インダクタ)、高周波部品、EMC対策部品、圧電部品、センサ、トランス、DC-DCコンバータ、スイッチング電源、DC-ACインバータ

#### <記録デバイス>

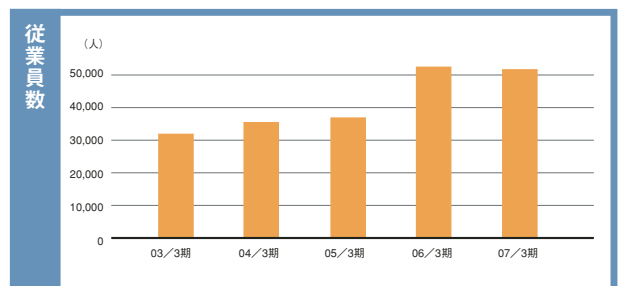
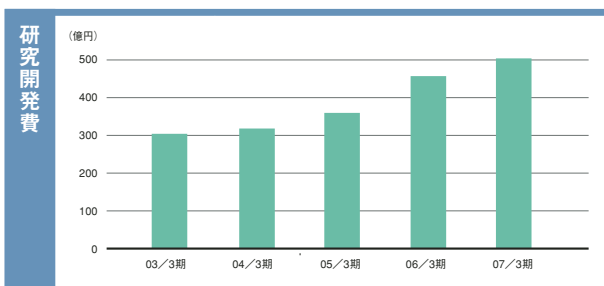
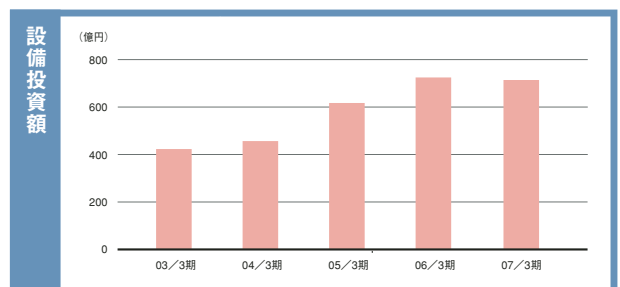
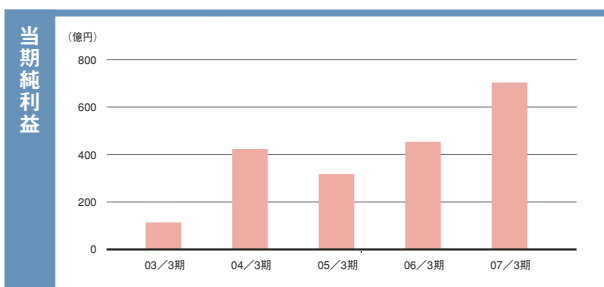
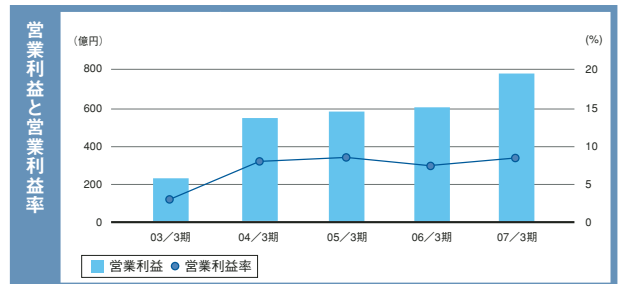
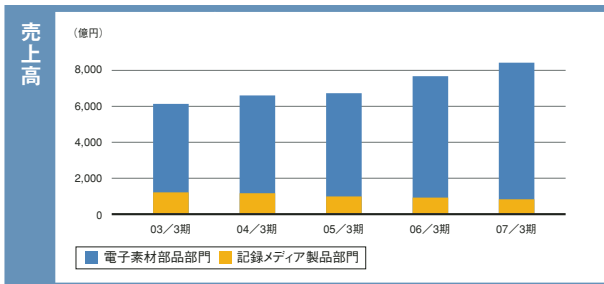
主要製品:HDD用ヘッド、サーマルヘッド、光ピックアップ

#### <その他電子部品>

主要製品:有機ELディスプレイ、電波暗室、メカトロニクス

### 【記録メディア製品部門】

主要製品:DVD、ブルーレイディスク、コンピュータ用データストレージテープ



## 経営理念

**社是** 創造によって文化、産業に貢献する

**社訓** 夢 勇気 信頼

夢…… 常に夢をもって前進しよう。  
夢のないところに、創造と建設は生まれない。

勇気…… 常に勇気をもって実行しよう。  
実行力は矛盾と対決し、それを克服するところから生まれる。

信頼…… 常に信頼を得るよう心掛けよう。  
信頼は誠実と奉仕の精神から生まれる。

## TDK企業倫理綱領

2002年4月制定/2005年5月改訂

### 企業倫理規範

TDKの構成員は、以下の事項の実践を自らの重要な役割として、率先垂範し、関係先をはじめ社内組織への周知徹底とその実現に努力します。

- 法令その他の社会的規範を遵守し、公正な企業活動を行う。
- 優れた製品・サービスの提供を通じて社会に貢献する。
- 従業員の人格・個性を尊重し、安全でゆとりのある職場環境を実現する。
- ステークホルダー(利害関係人)の権利を尊重する。
- 社会、地域に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。
- 地球環境の保全と豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

### 企業行動基準

TDKの構成員は特に以下の点に留意し、日常の業務活動を実践します。

#### － 事業活動について

- 優れた製品・サービスの提供と安全性の確保
- 取引先・関係先との健全で良好な関係の維持
- 公正で自由な競争の維持促進
- 知的財産権の保護
- 利益相反の禁止
- 秘密情報保護
- TDKグループの事業機会の私的流用の禁止
- 公平な取引の維持
- TDKグループの資産の保護および適切な使用

#### － 会社と従業員との関係について

- 従業員の人格・個性の尊重
- プライバシーの尊重
- 人権の尊重
- 法令で定められた労働条件の遵守
- 安全で健康的かつ快適な職場環境の確保

#### － 会社と社会との関係について

- 法令の遵守
- 経営の公正と透明性の維持
- 地球環境の保全
- 社会や地域への貢献

企業倫理綱領の全文は、TDKウェブサイトにてご覧いただけます。( <http://www.tdk.co.jp/tjaa01/aaa07000.htm> )



TDK株式会社

〒103-8272 東京都中央区日本橋1-13-1

TEL:(03)5201-7102

<http://www.tdk.co.jp/>



# TDK CSR Report 2007

*TDK Corporate Social Responsibility Report*

ダイジェスト版



※このパンフレットは、再生紙および大豆インクを使用しています。